

イオン環境財団助成 7 件目の事業クロッド村のアグロフォレストリーが終了しました

<9月に実施の理念・技術研修>



コロナダル市役所のバーニーさん（左）による傾斜地農法の研修では、メモする人、質問する人など、参加住民の関心の高さがうかがわれた。

<代替地として、1年間の活動を9カ月間で遂行！>

7月：当初の対象地域ブナオの代替地として承認される。
 8月：ブナオ用に注文済みの各種苗木をクロッドの集落中心部にトラックで搬入。定植に備えて日陰で養生。ナボル、ナラなどの在来種及び竹苗の定植に備えて、急傾斜地などを整地。続いて、伝統的バヤニハン（共同作業）により請負で定植。（9月中旬まで継続）。果樹苗などは受益者が適宜畑仕事の合間に定植。
 9月中旬：理念・技術研修。受益者30名中平均25名出席
 11月と3月：在来種苗木の手入れ
 ＊ 定植済苗木数：在来種各種3,500本。果樹・ココヤシ他収入源となる苗10種 計4,500本

<事業に参加した住民の声から>

- ① 数年後からでも収入増加が約束されているのは大変うれしい。こういうプロジェクトは初めてで、参加できて感謝している。
- ② 研修でアグロフォレストリーの意味がよく分かった。最初は、ただ配られた苗木を植えるだけの活動かと思っていた。（相田さん訪問時インタビューより）

<クロッドの成功の背景にボニファシオの密着指導>

ボニファシオの生育状況の確認や指導「数年後には収入になるから、手入れを怠らないように」という頻繁な声掛けに、皆意識が高まり、アグロフォレストリーの理念を理解し、長期展望を持つことができたようになったそうです。（報告：相田さん）



定植後6カ月を経て、1mほどに育ったアボカド苗。なお、アボカドは受益者1世帯10株配布されました。（左：相田・ボニファシオ）

過去17年間に実施の「環境保全と収入向上のためのアグロフォレストリー」計24件の評価活動



評価対象の一つ、バグンバヤン町ラワン地区。2011年度の三井物産環境基金の助成により、等高線状に植えられたゴム苗。順調であれば、昨年度から樹液採取が始まった事業地域です。

主に農業技術者からなるチーム・PFPが当団体のパートナーに加わった2002年以来、より広くより多くと、実施面積や受益者数を増やしてきた傾斜地農法によるアグロフォレストリー事業。有力な収入源として2009年度から取り入れたゴム苗の一部は、定植後6、7年といわれる樹液採取が始まっています。果樹やコーヒー、ココヤシ等の樹木作物についても、土壌浸食防止に役立っているか、収入向上の目的は達したかなど、成果確認が必要になりました。以下はPFPと調整中の評価項目です。

- ① 各地区の受益者 20-30 世帯のうち5世帯を抽出、ゴムほかの各種配布苗木の生育率、収穫状況確認。
- ② 入会地、急傾斜地などに植えたナラ、ナボル、ラワンなどの在来種苗木の生育状況の確認。熱帯林再生に寄与しているか等の評価。
- ③ 組織した受益者組合の現況、受益者以外の住民への波及。
- ④ 成果が上がっていない地域の状況、原因の聞き取り調査など。

2019年度の新規アグロフォレストリー支援は、ピラーンの青年リーダーによる小規模事業2件に限定

- ＊ **ボールドモデル農場事業**：農業技術者ボニファシオのもと、昨年より組織化を進めていた農業組合が、2月11日付で労働雇用省（DOLE）の認可を受け、アグロフォレストリー研修を主とするモデル農場事業を実施することになりました。研修経費や指導者の手当、種子代等を会費や寄付を充当して支援の予定です。
- ＊ **アムグオのアバカ栽培事業**：昨年度は「WE21 ジャパンみどり」支援事業の一部として実施のナバルタビ織の原料アバカ栽培を、今年度は単独の小規模事業として、当団体自己資金を充当して支援します。（農業専攻のボニファシオと地域開発専攻のアムグオのジャオは、互いに協力しての事業遂行を約束しています）